

大学英語教育学会（JACET）中部支部 2014 年度秋季定例研究会プログラム

日時： 2014 年 10 月 11 日（土曜日） 14 時—17 時 30 分

会場： 名城大学名駅サテライト MSAT 多目的室 電話：052-551-1666
〒450-0002 名古屋市中村区名駅 3-26-8 KDX 名古屋駅前ビル 13 階
（JR 東海「名古屋」駅から、ユニモール地下街 4 番出口を出てすぐ）

会費： JACET 会員無料、非会員 1000 円（学生は無料 ※学生証を提示のこと）

開会挨拶 14 時 00 分—14 時 05 分 大森裕實（愛知県立大学）

個人研究発表 14 時 05 分—14 時 35 分 司会 村田泰美（名城大学）
Strategies for Helping Poorly-Motivated Non-English Majors Remain Focused
Julyan Nutt (Tokai Gakuen University)

研究会発表 14 時 35 分—15 時 35 分
最新言語理論に基づく応用英語文法研究会
学習文法と科学文法のインターフェイス—英語感を涵養する言語理論研究の活用—
（司会兼務）大森裕實（愛知県立大学）
都築雅子（中京大学）
今井隆夫（愛知教育大学[非]）

休憩 15 時 35 分—15 時 55 分

講演会 15 時 55 分—17 時 25 分 司会 大石晴美（岐阜聖徳学園大学）
大学英語教育が目指すべきもの
松本青也（愛知淑徳大学名誉教授）

閉会挨拶 17 時 25 分—17 時 30 分 大石晴美（岐阜聖徳学園大学）

懇親会 17 時 45 分—19 時 15 分 （会場 和ダイニング あらた）

発表要旨

個人研究発表

Strategies for Helping Poorly-Motivated Non-English Majors Remain Focused

Julyan Nutt (Tokai Gakuen University)

First-year non-English majors were observed not to be able to concentrate for the full duration of their English class. The author wanted to see what affect a student-centered teaching approach had on their ability to concentrate, while working within the confines of the course textbook. Each textbook unit contains five exercises: warm-up, pair practice, grammar and listening exercises and free pair practice—to which a quiz was added. The strategies used were: adopting an inductive approach for the warm-up exercise, using pair rotation and look-up-and-speak when practicing in pairs, student conferencing during the grammar exercise, having a minute's break before the listening exercise, making the free pair practice less open-ended and more quantifiable, and having a simple review quiz at the end of class. To assess this approach, students were given a four-part questionnaire. In the first two parts they were asked to assess their ability to concentrate in a typical non-English lecture and then in the English class just taught. In the next two parts they were asked to evaluate, then comment on, how effective the teaching techniques were in helping them concentrate. The results revealed that overall, students felt they could concentrate better in the English class than other lectures, most markedly towards the end; and the majority of students felt that the strategies used helped them maintain concentration better than the author had thought.

研究会発表

最新言語理論に基づく応用英語文法研究会

学習文法と科学文法のインターフェイス——英語感を涵養する言語理論研究の活用——

(司会兼務) 大森裕實 (愛知県立大学)

都築雅子 (中京大学)

今井隆夫 (愛知教育大学[非])

M. ハリデーの機能文法観によれば、英語表現には、①直截的な整合形 (congruent form) と②抽象的な文法的メタファー (grammatical metaphor) の二種類があるということになるが、大学生 (おとな) の文法学習とは、②の言語表現を①に紐解くことのできる能力の修得ではあるまいか。これは、別の表現をすれば、英語感を涵養するということになる。本発表では、大学入学時までは表層的な文法事項の暗記に終始した感のある英語学習から一步進めて、言語研究の知識を活用することにより、「アハ体験」を伴ない長期記憶に訴える学習方法について考察する。事例研究1では、構文文法やフレーム意味論などの研究成果を英語教育にいかにかかすかについて考える。具体的には、自

然な英文を書くために、語彙やコロケーション理解にフレーム理論を活かし、辞書をどのように活用したらよいかについて探究する。事例研究 2 では、高校までの英語学習に真面目に取り組んだ学生であっても、母語話者の持つ英語感覚を必ずしも習得していない現状をパイロット調査結果により示す。さらに、認知言語学と整合性のよい、Image Grammar for Communication で実践してきた英語教授内容により、英語の感覚を説明することで、学習者が授業自体を enjoyable で valuable であると感じることを学生コメントから紹介する。

講演

大学英語教育が目指すべきもの

松本青也（愛知淑徳大学名誉教授）

5年間で体制を確立するはずだった「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想・行動計画は、10年以上たった今もほとんど目標を達成していません。その原因を突き止めることもなく、昨年末に発表された「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」では、更に高い目標が掲げられました。大学英語教育にもいつの間にか「TOEIC 対策」が蔓延し、「グローバル人材育成」というスローガンが一人歩きしています。英語ができなければという強迫観念にとらわれ、挫折感や劣等感を抱えた大学生を量産する授業ではなく、英語を学ぶ楽しさを実感させる授業を展開するために、私たちは何をすべきかを具体的に考えたいと思います。

講師紹介

松本青也（まつもとせいや）氏

愛知淑徳大学名誉教授。文学博士。

米国コロンビア大学大学院修了（応用言語学修士）。米国ハーバード大学客員研究員（1982-83）。外国語教育メディア学会（LET）副会長・中部支部長（1999-2004）。愛知淑徳大学大学院コミュニケーション研究科長、コミュニケーション学部長、交流文化学部長を歴任。著書に、*Sunshine English Course*（文部科学省検定英語教科書・共著・開隆堂出版）、『日米文化の特質 —文化変形規則（CTR）をめぐって—』（研究社）、『コミュニケーション学入門』（共著・ナカニシヤ出版）、『英語は楽しく使うもの』（朝日出版社）、『ネットで楽しく英語コミュニケーション』（編著・大修館書店）、『新版 日米文化の特質 —価値観の変容をめぐって—』（研究社）などがある。

懇親会のご案内

「和ダイニング あらた」(名古屋市中村区名駅3丁目17-20)にて、秋季定例研究会懇親会を行います。会費は4,000円を予定しております。準備の都合上、参加ご希望の方は10月9日(木曜日)までに、JACET中部支部ホームページよりお申し込みください。情報交換・意見の場として、多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、当日のキャンセルはご容赦ください。

事務局からのお知らせ

- ☆ 名城大学では、キャンパス内は禁煙です。
- ☆ 駐車場はありません。公共交通機関にてお越しください。
- ☆ 発表会場にはプロジェクター・スクリーンの準備があります。PCの接続が可能ですが、マックをお使いの発表者はRGB変換ケーブルをお持ちください。レジュメは各自40部程度ご用意ください。
- ☆ 当日、第5回中部支部役員会(12:00—13:30)を開催します。役員は同会場多目的室にご参集下さい。
- ☆ 次回の定例研究会は、2月28日(土曜日)に開催します。研究発表申し込みの締め切りは1月5日です。発表希望者は、11月15日以降に、JACET中部支部ホームページより、氏名・所属・タイトル・概要(日本語300字または英語200語程度)など、必要事項を記載の上、お申し込みください。

定例研究会に関するお問い合わせは、JACET中部支部事務局までお願いします。

支部事務局：名古屋工業大学 石川有香研究室内

ishikawa.yuka@nitech.ac.jp